

瀬戸内海の家ゴミ問題

1. 海ゴミは3種類

海ゴミは、その形態から、大きく3つに分けることができます。特に海底ゴミは、普段あまり目にしないため、「目に見えない環境問題」と言われています。

海ゴミ

「海岸漂着ゴミ」



海岸に打ちあがったゴミ

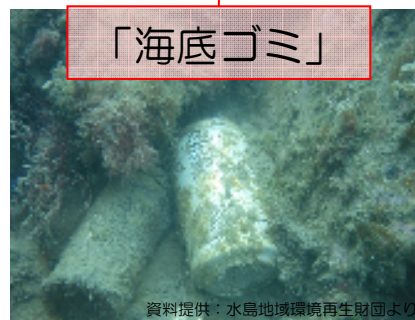


「漂流ゴミ」



海面に漂流しているゴミ

「海底ゴミ」



海底に沈んで堆積している空き缶

2. 海ゴミの問題点

○景観を悪くする



遠くから見ると
キレイな海岸ですが…



○処理に困る



大量のゴミ

家電や自転車



○漁業に支障をきたす

商品である魚に傷が付く、漁師さんが怪我をする、ゴミの仕分けに時間がかかる、
商売道具の漁具・網が壊れる、など



船上でのゴミ仕分け



破れてしまった底びき網

(資料提供：水島地域環境再生財団より)



針つきの釣り具

その他、船の航行を妨げる、海の生物・生態系に悪影響を与える、などの問題もあります。

3. 海ゴミの原因

海岸で捨てられたゴミの他に、川や水路、ため池に捨てられ海に流れ着いたゴミや、船から海に捨てられるゴミなどがあります。



川や水路に捨てられたゴミ



外国船から捨てられたと思われるゴミ



資料提供：水島地域環境再生財団より

4. 私たちにできること

①生活から出るゴミを減らそう。

海ゴミの大半は私たちの生活から出るゴミです。マイバッグを使用する、使い捨て商品进行避けるなどゴミを減らす工夫をしましょう。

②外で出たゴミは家に持ち帰って正しく処分しよう。

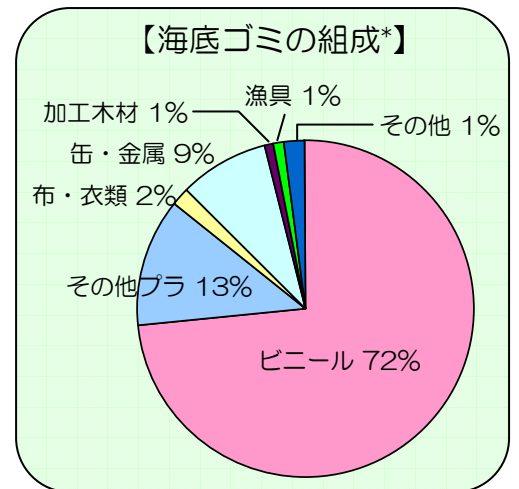
屋外で、満杯のゴミ箱の脇にゴミを置いたり、側溝にゴミを捨てたりしていませんか？ 風で飛ばされたビニール袋をそのままにいませんか？

③正しく分別してリサイクルしよう。

ペットボトルやプラスチック、缶などは正しく分別して処分すれば、貴重な資源です。

④海で遊ぼう、魚を食べよう。

海で遊んだり、海や魚のイベントに参加してみましょう。



*小豆島北部海域における調査の結果

【様々な海ゴミの例】



靴や鍋、ざぶとんなど



大量のビニール、弁当ガラなど



園芸用品や釣り用品など



タイヤやペットボトルなど

瀬戸内海の海底ゴミ問題 ～目に見えない環境問題～

【小豆島北部海域における海底ゴミ調査】

1. 調査方法

小型底びき網漁船

網で海底を引きずるようにして魚介類を獲っていますが、同時に海底ゴミも網に入ってしまう。それを漁師さんに持ち帰ってもらい、分別調査しました。



調査海域 ～小豆島北部～

四海漁協所属の小型底びき網漁船35隻により、小豆島と岡山県の間の海域で調査しました。

2. 海底ゴミの実態



網を揚げたところ

魚介類に混じって、ビニール、弁当ガラなどが見受けられます。



港に集められたゴミ

最初の3日間で188袋分のゴミが集まりました！

実際に入網したゴミ

この漁船では、1日の操業でゴミ袋2つ分のゴミ（ビニール・弁当ガラ・空き缶・ペットボトルなど）が網に入りました。

3. 調査結果

ゴミ袋1012袋分の海底ゴミを回収！ そのほとんどが日常生活から出るゴミ・・・

- 11月24日～2月7日までの約2ヶ月半の間に、45ℓゴミ袋で1012袋分のゴミが回収されました。これは、約41㎡、2tトラック20台分にもなります。
- そのうちの147袋の分別調査を実施したところ、およそ9800個のゴミがあり、重さ約1.1トンにもなりました。全体では、約67000個、7.5トンもの海底ゴミを回収したことになります。
- そして、その85%がビニールや弁当ガラ、ペットボトルなどのプラスチック類、9%が空き缶などの金属類が占め、日常生活から出るゴミがほとんどでした。
- 海域別にみると、岡山県側の海域から、より多くのゴミが回収されました。

